

# 2020年度 事業計画 及び 収支予算書

## I 2020年度事業計画

2020年1月、中国の武漢市に端を発した新型コロナウイルスによる感染症の世界的蔓延により、九州交響楽団においても2019年度3月度に予定していた自主公演4公演、依頼公演3公演を中止せざるを得ない状況となり、2020年度4月以降の公演の開催可否についても予断を許さない状況にあるが、九州の中核都市福岡に拠点を置く九州交響楽団は、福岡県から公益法人の認定を受け、国、福岡県、福岡市、北九州市、地方公共団体、産業界、市民からの助成を得て、2020年度も福岡県を中心に公益目的事業として演奏活動を行い音楽文化の普及、向上発展に努めてまいり所存。

なお、公益目的事業は、九州交響楽団が自ら企画・主催する<主催公演>と鑑賞団体、企業、学校などからの依頼を受け出演する<依頼演奏会>に分けられる。

そのほか、収益事業として、演奏会会場等でCD等の販売を行う。

### (1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画し、市民に幅広く告知・販売して公演を行うことによりクラシック音楽の魅力を市民に伝える公演である。

2020年度については福岡市内で24公演、北九州市内で4公演を実施する。

(昨年9月30日に公表済)

#### 【福岡市内】

シリーズものの三本柱として

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)

その他の主催公演として

- ④ <真夏の三大交響曲> (1公演)
- ⑤ <第九公演> (1公演)
- ⑥ <ニューイヤー・コンサート2021> (1公演)
- ⑦ <九響・春のこどもコンサート> (1公演)
- ⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2公演)
- ⑨ <九響スペシャル 室内オーケストラの愉しみ> (1公演)

## ① <定期演奏会>

<定期演奏会>は、地域における芸術文化の発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進に努める。近現代作品も含め芸術性を重視し、これまで九州で採り上げたことのなかった作品の紹介やアジアからの指揮者・ソリストの招へいに努める。

### ● 2020年度の特徴として

- (i) 小泉和裕音楽監督出演の4公演は、生誕250周年のベートーヴェンイヤーに因み、ベートーヴェン自身“私の最大の作品”と言っていた傑作「ミサ・ソレムニス」(4月)、マーラー作品として交響曲第8番、第3番に続き人気の大作である第2番「復活」(9月)、ヒンデミット、シューマンの名作を並べたドイツ系作品プログラム(12月)、チャイコフスキー最後の交響曲で傑作として名高い交響曲「悲愴」をメインに据えたプログラム(2021年2月)で音楽監督就任8年目の“小泉=九響”の真価を問う。
- (ii) フィンランドの代表的指揮者オッコ・カム氏は、母国の現代作曲家サッリネンの作品とお得意のシベリウス作品を披露する(5月)。名匠ユベール・スダーン氏は、シューベルトの2大交響曲でドイツ音楽の神髄を聴かせる(6月)。シンガポール出身のカーチュン・ウォン氏は、バルトークの人気作品と珍しいカリンニコフ作品等のプログラムで再び九響の指揮台に上がる(10月)。
- (iii) フィンランドの現代作曲家サッリネンの作品を採り上げる(5月)。注目の作曲家小出稚子氏による委嘱作品など敬遠されがちな現代作品や邦人作品にもスポットを当てる(7月)。
- (iv) 合唱付の作品は、ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス(4月)、マーラー/交響曲第2番「復活」(9月)を採り上げる。合唱付作品には欠かす事の出来ない九響合唱団が出演する。
- (v) 戦後75年を意識した、武満徹/弦楽のためのレクイエム(7月)、マーラー/交響曲第2番「復活」(9月)、ショスタコーヴィチ/交響曲第7番「レニングラード」(11月)をプログラミングし、戦後の復興に想いを馳せる。
- (vi) 九響定期公演に初登場の指揮者は、オッコ・カム氏(5月)、ユベール・スダーン氏(6月)、沼尻竜典氏(11月)である。

## ② <天神でクラシック>

<天神でクラシック>は、クラシック音楽の普及を目的とし、各回毎にプログラムにテーマを設け、出演者のトークを交えることでクラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただく。

● 2020年度の特徴として

- (i) 元ベルリン・フィルの名コンサートマスター安永徹氏が2年ぶりに登場し、ソロ演奏を披露。九響メンバーもソリストを務めるハイドンの協奏交響曲を採り上げる(5月)。
- (ii) 夏にふさわしいラテン系作品をプログラミング。指揮は、注目の原田慶太楼氏が務める(7月)。
- (iii) 指揮とバロックチェロの両面で活躍中の鈴木秀美氏が、古典派のシンフォニーを古楽的なアプローチで作品の本質に迫る(11月)。
- (iv) ロングランシリーズ「続…モーツァルトをあなたに」では、ローレンツ・ナストゥリカ＝ヘルシュコヴィチ氏が指揮とヴァイオリンでモーツァルトの世界を表現する。さらに九響メンバーがソリストとして登場する(2021年1月)。

③ <名曲・午後のオーケストラ>

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、クラシック音楽の普及を目的に、子供からお年寄りまで来場しやすい休日の午後2時に開演し、馴染みのある名曲をお届けすることで、フルオーケストラの迫力や生の演奏の魅力を実感していただく。

● 2020年度の特徴として

- (i) 小泉音楽監督によるベートーヴェン生誕250周年を意識したプログラムを用意した。明るく開放的な交響曲第6番「田園」と精神的な迫力を持つ第5番「運命」の2大人気作品を同一公演で演奏する豪華なコンサートを開催する(6月)。
- (ii) ベートーヴェン作品と併せて、梅田俊明氏は春のシーズンにシューマン／交響曲第1番「春」(4月)を、下野竜也氏はお得意のスッペ／序曲集(9月)を、サッシャ・ゲッツェル氏はR.シュトラウス／「ばらの騎士」組曲でドイツ後期ロマン派の世界感を披露する(2021年2月)。
- (iii) 終演後は、ロビーラウンジで楽団員とお客様がコーヒー・ワインなどを飲みながら懇談・交流する「九響交流カフェ」を引き続き開催する。本シリーズ立ち上げ時から毎回開催しているイベントで、コアなファンづくりに大きく貢献している。

④ <真夏の三大交響曲>

<真夏の三大交響曲>は、8月に小中高校生を含む幅広い年齢のお客さまが、ドヴォルザーク、シューベルト、ベートーヴェンの極め付けの交響曲3曲「新世界より・未完成・運命」を1日にして楽しめる贅沢な企画である。

4回目となる2020年度は、当楽団の桂冠指揮者秋山和慶氏が指揮を執り、福岡の夏の風物詩として定着を図る。

⑤ <第九公演>

2019年度から名曲・午後のオーケストラシリーズから外し、年末恒例コンサートとして独立した公演としている。タクトを取るのは小泉和裕音楽監督、合唱は九響合唱団を中心とした合同合唱団が務め、人気の歌手陣がソロを担う。

⑥ <ニューイヤー・コンサート 2021>

ウィンナワルツなどを通じ、新年の華やかさを演出しつつクラシック音楽の魅力を伝え、芸術文化の普及拡大に努める。今回は最近活躍の場を広げている注目の指揮者 原田慶太楼氏が出演する。人気の男声ユニット「イル・デーヴ」と共に楽しいステージを演出する。

⑦ <九響・春のこどもコンサート>

昨年度、平成25年度から続けてきた「親と子のためのコンサート」をリニューアル。未来の音楽ファンである子どもたちに「楽器体験コーナー」で音楽の喜びを体験していただくとともに、親子で本格的なオーケストラサウンドを体感していただくことで、会場が一体となるコンサートを開催する。指揮に親しみやすいトークを得意とする岩村力氏を迎え、NHK「おかあさんといっしょ」にも出演している歌のおねえさん西けいこ氏とのコラボレーションにより親しみやすく楽しい雰囲気のお届けをする。

⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロス万人コンサート）>

<舞台芸術感動体験事業コンサート>は、アクロス福岡が青少年を対象として企画している公演であるが、2020年度もアクロス福岡と協力し、共催事業として開催する。

⑨ <九響スペシャル 室内オーケストラの愉しみ(新企画)>

九響をさらに身近に感じていただき、クラシック音楽の普及と九響ファンの拡充を目的に、<室内オーケストラの愉しみ～2020年夏の宴>を実施する。指揮者を置かないスタイルで、コンサートマスターのリーダーシップのもと、オーケストラメンバー一人ひとりの自発的なコミュニケーションによって音楽を盛り上げていく異色のコンサートを実施する。

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及を目的として4公演を実施する。

- ① <北九州定期演奏会> (2公演)
- ② <第九公演> (1公演)
- ③ <ニューイヤー・コンサート 2021> (1公演)

① <北九州定期演奏会>

5月公演は福岡の「天神でクラシック 5月公演」と同じ内容をお届けする。元ベルリン・フィルの名コンサートマスター安永徹氏がソロ演奏を披露。九響メンバーもソリストを務めるハイドンの協奏交響曲を採り上げる。9月公演は下野竜也氏がスッペ選りすぐりの序曲集をお届けする。

② <第九公演>

福岡公演と同じく小泉音楽監督がタクトをとる。合唱は「北九州フロイデコール」がその任を担う。

② <ニューイヤー・コンサート 2021>

福岡公演と同じく、最近活躍の場を広げている注目の指揮者原田慶太楼氏が登場し、人気の男声ユニット「イル・デーヴ」と共に楽しいステージを演出する。

## (2) 依頼公演

依頼公演は、<主催公演>以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートである。

2020年度の大きな依頼公演では、平成17年度から始まった「福岡県市町村振興協会」主催の中学生を対象とした公演「中学生の未来に贈るコンサート」を、2020年度も新たな契約(3年間)のもと32回実施する。

また2020年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演事業)」が採択されたことにより、6月、11月の2回に分けて計8公演を北部九州エリアで実施する。

今後も2020年度内において公演依頼がある場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏を実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

---

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会（11公演：福岡市9公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜定期演奏会＞（9公演）

北九州市での

＜定期演奏会＞（2公演）

[2] 巡回演奏会（12公演：福岡市10公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜天神でクラシック＞（4公演）

＜名曲・午後のオーケストラ＞（4公演）

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤー・コンサート2021＞（1公演）

北九州市での

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤー・コンサート2021＞（1公演）

[3] 特別演奏会（5公演）

福岡市での

＜三大交響曲の夕べ＞（1公演）

＜舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロスー万人コンサート）＞（2公演）

＜九響・春のこどもコンサート＞（1公演）

＜九響スペシャル 室内オーケストラの愉しみ＞（1公演）

[4] 移動音楽教室（1演）

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する＜依頼公演＞の一つであるが、  
《移動音楽教室》として分類している。

[5] 依頼演奏会（119公演：オーケストラ公演：79公演、室内楽演奏：40公演）

<参考> 公演数一覧

	2020年度計画	2019年度計画	回数増減
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	増減なし
特別演奏会	5回	7回	2回減
移動音楽教室	1回	3回	2回減
依頼演奏会	79回	92回	13回減 ※
合計	108回	125回	17回減

※ 中学校公演7回減

	2020年度計画	2019年度計画	回数増減
室内楽	40回	40回	増減なし